

(4) 実践事例

ア 実践事例①A校 (第3学年)



《9月》
 学級の児童は、どのステップに当てはまるかな？確かめてみよう！
 さらに、ステップアップするための手立ては…？

※「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」は、トップページからダウンロードできます。

「授業改善ステップ表」

児童に、学習のゴールまでの見通しを持たせていますか？
 学習への目的意識や必要性は持たせていますか？

ステップ①	ステップ②	ステップ③
本時のために目標を立て、学習計画に沿って、一歩一歩のゴールを見通している。	単元の始めに達成させた学習計画に沿って、目的意識や必要性のゴールを見通している。	単元の始めに達成させた学習計画に沿って、目的意識や必要性のゴールを見通している。

「手立て一覧表」

手立て	ステップ①	ステップ②	ステップ③
A		✓	
B	✓		
C		✓	
D	✓		

★本単元における授業改善の流れ (単元前)

授業改善の流れ	A教諭の意識	「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」の活用																				
<p>(1)</p> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">児童の実態把握</p> <p style="font-size: 2em;">↓</p>	<p>何を習得する単元か、児童は分かっているか…。</p> <p>対話を通して、よりよい考えを導き出してほしい。</p> <p>課題を解決するために何をすべきか児童は考えていない。</p> <p>できるようになった理由や根拠を理解していない。</p>	<p>各観点のチェック欄の整理 (A教諭)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ステップ①</th> <th>ステップ②</th> <th>ステップ③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">A</td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">B</td> <td>✓</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">C</td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">D</td> <td>✓</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">↓</p>		ステップ①	ステップ②	ステップ③	A		✓		B	✓			C		✓		D	✓		
	ステップ①	ステップ②	ステップ③																			
A		✓																				
B	✓																					
C		✓																				
D	✓																					
<p>(2)</p> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">授業の改善点と目指す児童の姿の洗い出し</p> <p style="font-size: 2em;">↓</p>	<p>今のステップと、次の段階のステップを見比べると、今の授業の改善点分かるよ。目指す児童の姿が具体的に設定できるね。</p> <p>身に付けさせるべき力を、児童に示してこなかったな…。</p>	<p>各観点で目指す児童の姿 (次のステップ)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tbody> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">A</td> <td>③</td> <td>身に付けるべき力を意識して単元のゴールを見通す</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">B</td> <td>②</td> <td>課題を解決するための方策や道筋について考える</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">C</td> <td>③</td> <td>対話を通して、考えをより確かなものにする</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">D</td> <td>②</td> <td>理由や根拠を挙げながら、学びを振り返る</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">↓</p>	A	③	身に付けるべき力を意識して単元のゴールを見通す	B	②	課題を解決するための方策や道筋について考える	C	③	対話を通して、考えをより確かなものにする	D	②	理由や根拠を挙げながら、学びを振り返る								
A	③	身に付けるべき力を意識して単元のゴールを見通す																				
B	②	課題を解決するための方策や道筋について考える																				
C	③	対話を通して、考えをより確かなものにする																				
D	②	理由や根拠を挙げながら、学びを振り返る																				
<p>(3)</p> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">手立てを取り入れた授業実践 (単元)</p> <p style="font-size: 2em;">↓</p>	<p>「手立て一覧表」を見ると、ステップアップのための手立てが、いくつか挙げられているけど、今回はこの手立てを取り入れてみよう！</p>	<p>取り入れる手立ての決定</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tbody> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">A</td> <td>h'、g</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">B</td> <td>h'、k、m</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">C</td> <td>u</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">D</td> <td>x</td> </tr> </tbody> </table> <p>単元前に e、単元後に z の手立ても使えそう…。</p>	A	h'、g	B	h'、k、m	C	u	D	x												
A	h'、g																					
B	h'、k、m																					
C	u																					
D	x																					

手立てを取り入れた授業の実際は、次頁から見るすることができます。

第3学年

「夏休みの思い出文集を作ろう」

～夏休みの思い出の中から伝えたい出来事を決め、出来事の中心がよく伝わるように、事柄ごとに段落を組み立てて書く～

★本単元で育成を目指す資質・能力

- 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。 [知識及び技能] (1) ウ
- 書こうとすることの中心を明確にして見出しを付けたり、取材したことから理由や事例を挙げて書くことができる。 [思考力、判断力、表現力等] (1) ウ

★学習過程（書くこと）

題材の設定、情報の収集、内容の検討	相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確すること
構成の検討	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係を注意したりして、文章の構成を考えること
考えの形成、記述	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
推敲	間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。
共有	書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

「手立て一覧表」に挙げられた手立ては、単元の一次、二次、三次のどの過程で取り入れるべきかも示してあるから、単元計画を立てるときのヒントになるね。



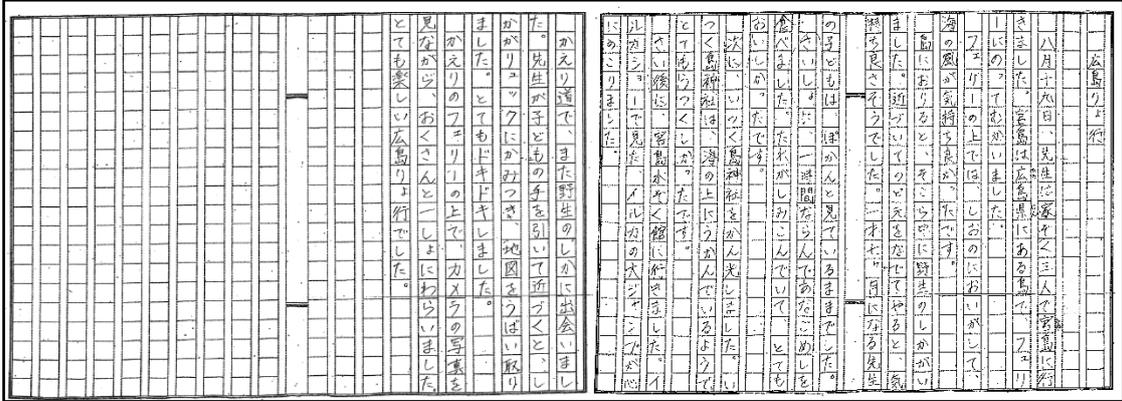
★単元計画

学習過程	時	主な学習活動	指導上の留意点 (記号：手立て一覧表)
単元前		○週末の課題作文で、「夏休み一番の思い出」について書く。	・記憶が鮮明なうちに記録を残させるために、夏休み直後に、出来事を書き出させておく (e)。
一次 (つかむ)	1	○2種類のモデル文を読み、段落の工夫を考え、学習課題を設定する。 ○学習課題を受けて、おおまかな学習計画を立てる。	・時系列順に羅列した作文と、段落の組み立てを工夫した作文を比べ読みさせることで、学習課題に迫らせる (h', k)。 ・児童が主体的に学習を進められるように、児童の発言を取り上げながら、「メモ」「構成」「清書」「交流」の事柄に分けて、活動時間と内容を検討させる (g)。
		2 3 4 5 6	○学級の友達に一番伝えたいことを考える。 ○出来事を思い出したり、取材したりして、思い出メモを作る。 ○構成を意識してメモを並べ替える。 ○書き出しの工夫を考える。 ○メモを基に作文を書く。
二次 (深める)	7	○作文を読み合い、感想交流を行う。	・本単元で身に付けたことに目を向けさせるために、感想の視点を示す (u)。 ・構成の工夫などを今後の学習でも活用できるように、カード化して室内掲示する (x)。
三次 (まとめる)		○週末の課題作文で、構成や書き出しの工夫をして書く。	・習得した知識及び技能を活用できるような、条件作文を提示する (z)。
単元後			

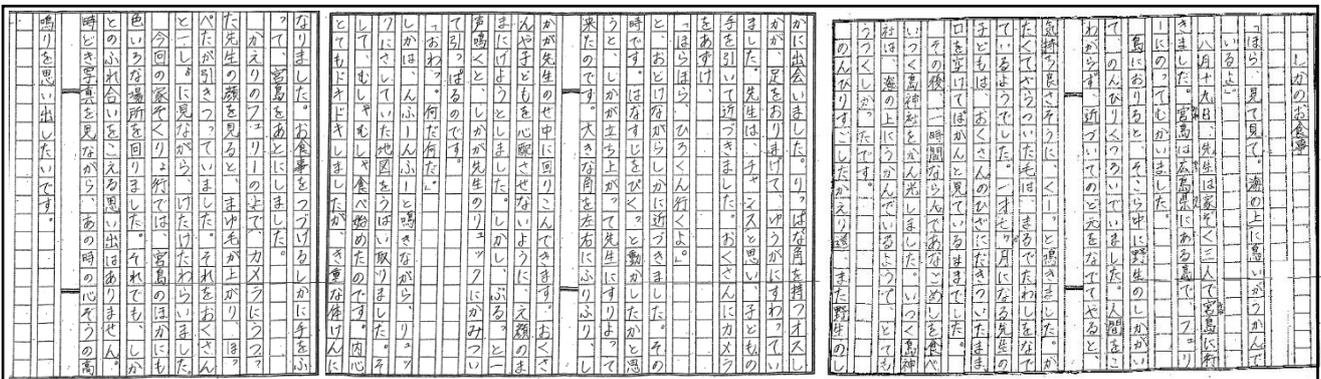
★手立てを取り入れた授業の実際

第一次
①/7

A 単元のゴールを見通させる。
h' 教師自作のモデル文を提示し、学習のゴールを明らかにするとともに、児童の意欲を喚起する。



資料 1 時系列で羅列した作文例①（教師作）



資料 2 段落の組立を工夫した作文例②（教師作）

2種類の作文例（資料1、2）を提示し、その違いを考えさせながら、学習課題を決定しました。段落の構成や書き出しの工夫、感情表現などに着目させ、児童と共に学習課題を設定しました。また、学級全員の思い出作文をまとめ、単元のゴールとして文集を作ることを伝え、意欲付けを図りました。



作文例①に比べて、作文例②の方が文章が長いね。何が書いてあるのかな。



書き出しも違うね。会話文から始まっているよ。



作文例②の方は、鹿とのふれあいを詳しく書いてあるよ。



作文例②の方が、言葉の表現がおもしろいな。声や音がたくさん書いてあるね。

↓ 児童の気づきを学習課題へ取り入れる。

本単元の学習課題
夏休みの思い出をメモに書き出し、メモを並べ替えながら順番を考え、クラスのオリジナル思い出文集を作ろう。

その後、学習課題達成に向けた学習計画を、児童との対話を基に立てていきました。

第二次

③ / 7

B 出来事と感想について、よりよい構成を考えさせる。**m** 色分けした付箋を使い、自分の構成を視覚的に捉えやすくする。

出来事を想起させ、一文でメモに書かせました（資料3）。その際、黄色とピンク色の付箋を使い、黄色には「見聞きしたこと」などの出来事を、ピンク色には心情表現を書くように指導しました。一文で付箋を書かせたことで、児童は付箋の枚数が増えていくことに喜びを感じ、意欲的に取り組むことができたようです。また、色分けした付箋を使ったことで、出来事の羅列になってしまわないように、適宜ピンク色の付箋を考えて付け足すことができていました。

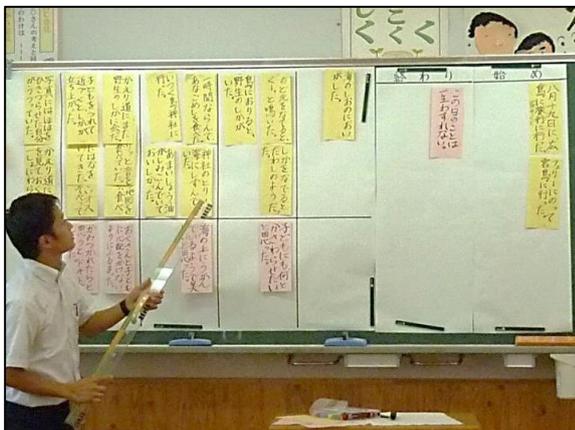


資料3 2色の付箋にメモをする様子



その後、思い出を書き出してきた付箋を、「始め・中・終わり」の順番を意識して並べ替えさせました。教師による並べ替えの例を黒板上で示し（資料4）、それぞれの部分にどの付箋が当てはまるか考えさせました。

「中」の部分に分けるときは、まとまりごとに段落を意識して付箋を並べ替えさせました。児童の発言を取り入れ、まとまりごとに線を引いたことで、児童は段落を意識して考えることができました。貼り替える際、伝えたいことが伝わるように、児童によっては不要な付箋をはがしたり、まとまりの順番を変えたりしていました（資料5）。



資料4 教師による付箋メモの並べ替え



資料5 付箋を並べ替える様子

第三次
⑦/7

C 互いの作文を読み合うことで、互いの良さに気付かせる。

u 作文を読み合う際、「伝えようとしていることへの感想」と「工夫したことへの感想」の視点を与える。

完成した作文を、学級内で読み合い、感想を伝え合わせました。その際、互いを認め合いよさについて気付かせるために、「悪いところは書かず、良いところを探して書く」という意見を児童から引き出しました。そして、学習で身に付けた知識及び技能に着目させるために、書き手が最も伝えようとしている中心についての感想を書くこと、あるいは書き手が工夫したことへの感想を書くという視点を与えました。



その後、まずは生活班の中で、次は自由に立ち歩いて、友達と互いの作文を読み合い、付箋に感想を書いて貼り合わせました（資料6）。



友達の作文を読んで、感想を伝え合いましょう。何について書いてもらった嬉しいかな。

私が書いた作文は、どんなところがいいかを教えてほしいです。



私が一番伝えたいことについて、きちんと伝わっているか知りたいです。



題名とか書き出しとか、工夫したことについても何か書いてほしいです。



題名がとても怖いから、ドキドキしました。私も乗ってみたいな。



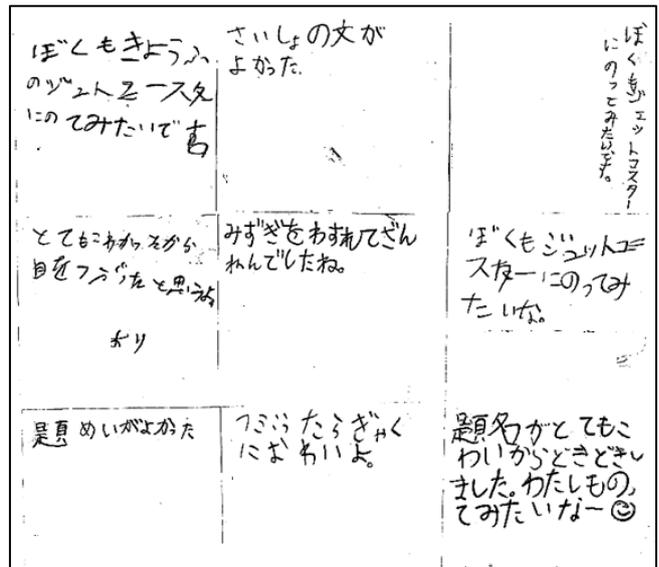
とてもこわかったから、目をつぶったんだね。



最初の文が、かぎ（「」）から始まっていていいね。



ぼくも恐怖のジェットコースターに乗ってみたいです。



資料6 付箋を用いた感想交流

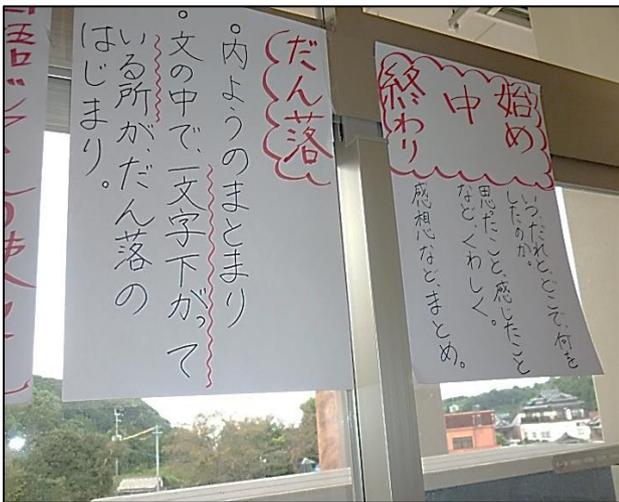
第四次
⑦/7
単元後

D 学習したことを日常生活の中で活用させる。

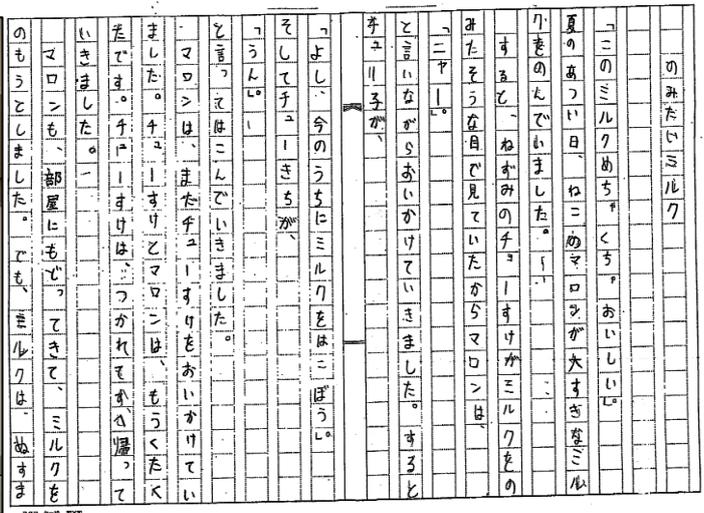
- x** 児童が身に付けたことを既習知識として、カード化する。
- z** 児童が身に付けたことを日常生活の中で活用させるために作文課題を与える。

単元の終末で、身に付けた力を振り返らせました。新しく身に付けた知識をまとめ、それをカード化して教室に掲示しました（資料7）。

本学級では、他の単元学習も、学習後に同様の作業を繰り返しており、カードが増えていっています。学習後も、再度「書くこと」領域の学習を行う際、掲示物のカードを示しながら、身に付けた知識及び技能を振り返る手立てとして活用しています。実際に、「人物を考えて書こう」（10月）の学習でも、段落の構成や書き出しの工夫を取り入れて作文を書くことができました（資料8）。



資料7 教室に掲示したカード



資料8 「人物を考えて書こう」の作文

本学級では、毎週末に作文課題を出しています。その中で、学習した知識を活用させるために、条件を示しています。例えば、「一番心に残っている見学先のことについて書く」、「書き出しを会話文から始める」という条件を示して書かせました（資料9）。そうすることで、学習した知識を意識して作文に書くことができました。

<p>校外学習について</p> <p>ぼくは、校外学習でクラスみんなとうちゅう科学館に行きました。中ははんでまわりました。まずさいしょに地しんを体けんしました。楽しかったけど本当にこんなことがおきたらどうしようと思いました。つぎにムーンウォークをやりました。前にすすむのがむずかしかったです。終わったあとに体がすこし重く感じました。</p> <p>楽しかったのでまた行きたいなと思います。</p>	<p>びつくりひこばえ発表会 (きんちようするな)</p> <p>わたしはひこばえ発表会の当日ドキドキでたまりませんでした。プログラムで一番始めだったからです。始まって、〇〇ちゃん△△くん□□くんから言葉をいって自分の番がくると、とてもきんちようしました。自分の番が通りすぎるときんちようがとでも、ほぐれました。</p> <p>プロジェクトが流れ終わると、◇さんの言葉で終わりました。</p>
--	--

資料9 本単元後の週末課題作文（児童作）

★本単元における授業改善の流れ（単元後）

授業改善の流れ	A 教諭の意識	「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」の活用																				
<p>(4)</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #f9e79f; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>取り入れた手立ての検討</p> </div>	<p>○単元導入時の学習課題を立てる段階において、教師作の 2 種類の作文例を比べ読みさせたことで、本単元のねらいを焦点化し、児童は学習のゴールまでの見通しを持つことができたと考えられる (h')。</p> <p>○内容・構成の検討の際、色分けした付箋を用いてメモを書かせたことにより、児童にとって文章構成の工夫が視覚的にも分かりやすくなったと考えられる (m)。</p> <p>○感想を伝え合う際、互いのよさを認め合い、単元で取り組んできたことに対して感想を書き合ったことで、児童が自己肯定感や達成感を味わうことができたと考えられる。また、作文で一番伝えたかったことが伝わったか、工夫した点が伝わったかを振り返ることもできたと考えられる (u)。</p> <p>○単元終末の振り返りの段階において、単元の取組によって身に付けた知識をまとめてカード化したことで、児童は単元後も本単元で身に付けた知識を活用することができたと考えられる (u)。</p> <p>●児童が互いに推敲する場面において、誤字脱字への指摘が若干あった程度で、内容や構成に関する指摘はできていなかった。推敲を行う際の視点を絞って与えることで、書き手にとって伝えたいことを中心、自分の考えを明確に書くことができていたかを振り返ることにつながると考えられる。</p>	<p>単元前の児童 (✓) と本単元での児童 (◆)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;"></th> <th style="background-color: #d9ead3;">ステップ①</th> <th style="background-color: #d9ead3;">ステップ②</th> <th style="background-color: #d9ead3;">ステップ③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: #d9ead3;">A</td> <td></td> <td>✓</td> <td>◆</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d9ead3;">B</td> <td>✓</td> <td>◆</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d9ead3;">C</td> <td></td> <td>✓</td> <td>◆</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d9ead3;">D</td> <td>✓</td> <td>◆</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		ステップ①	ステップ②	ステップ③	A		✓	◆	B	✓	◆		C		✓	◆	D	✓	◆	
	ステップ①	ステップ②	ステップ③																			
A		✓	◆																			
B	✓	◆																				
C		✓	◆																			
D	✓	◆																				



観点 A、B、C、D とも、単元前より 1 つずつステップアップできているぞ！！

これまで、学習課題を「～（言語活動）しよう」と設定することが多かったけれど、身に付けさせる力と具体的な学習活動（思考操作）についても取り上げることで、単元の見通しがよりはっきり立てさせられると分かったよ (h')。

次の単元からは、振り返りの視点を与える w の手立てと、自分の変容を自覚させる w' の手立てを取り入れて、観点 D を更にステップアップしたい！！

